

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	授業参観支援ツール Lesson Note を用いた教育実習生の支援に関する研究
------	--

研究代表者

氏名 中村 光 一	所属 数学科教育分野	職名 教授
--------------	---------------	----------

研究分担者

氏名 藤井 齐亮	所属 数学科教育分野	職名 教授
太田 伸也	数学科教育分野	教授
西村 圭一	数学科教育分野	准教授
越後 佳宏	附属世田谷小学校	教諭

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

研究の目的

教育実習において学生が授業ができるようになるために、実際に、授業の計画、実施、授業参観、そしてその反省というプロセスがくり返される。そのプロセスにおいて、実際の授業を参観することが重要な役割を果たしている。授業を実施しその観察した事実をもとに、最初に行った授業の計画を見直す、そのときの授業者の考え方を反省しそれを修正する。さらに、次の授業の計画をすることへとつながる。授業の計画と実習生自身の思考の仕方を反省する機会を提供するために、授業の参観は重要である。しかし、これまで授業の参観はみようみまねで行ってきた。または授業記録用の用紙を学生に渡す程度であった。授業参観の仕方を支援するために、授業観察支援ツール Lesson Note を開発した。本研究では、この開発したツールの実際の利用を試み、その可能性を探り、教育実習において授業観察支援ツールを全学生に対して利用する可能性を探ることが本研究の目的である。

研究の方法

附属世田谷小学校において、3名の学生に授業観察支援ツール Lesson Note をインストールした iPad を実習期間中に貸与した。そして、指導する教員、実習生がともに、授業観察支援ツール Lesson Note を用いて授業観察、授業後の協議会を実施した。その様子をビデオに録画し、分析のためのデータを収集した

結果の概要

教育実習生と指導する教員の両者が授業参観をし、その記録を iPad を用いて作成した。その結果従来の実習のときとは異なることが生じた。

- ・ 協議会において、学生が記録した iPad の画面を見せ合って議論がなされた。
- ・ iPad の記録では時刻が記録されるため、学生は出来事の時間をもとにして様々な授業の出来事について話し合うようになった。

もちろん、教育実習の初期にはこのような現象は生じなかったが、比較的はやい段階において上記のような教育実習生の活動がみられた。従来の実習生が、授業で生じた子どもの解決、教師の発言を具体的な事実として議論をすることは容易なことではなかった。iPad にインストールした授業観察支援ツール Lesson Note を用いることで、教育実習生は具体的な授業の事実を教育実習生が比較的実習の想起に捉えることができるようになっている。

今後の課題としては、収集したデータの分析を継続するとともに、より多くのデータを収集することがある。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

- ・ 中村光一(2013)「算数・数学科授業研究の背景にある考え方 - 研究協議会での議論の分析を通して - 」
- ・ 執筆中